



ばん ゆんじえ
方 閔 濟 准教授

“ 出身地 韓国・浦項 ”

専門分野

韓国文学・韓国文化教育

Q

担当科目を教えてください。

A

【プロジェクト演習A・B】

この授業では、単に「朝鮮語」の知識を学ぶだけでなく、実際の場面の中でことばを使う力を身につけていきます。アクティブ・ラーニングを通して、相手の気持ちやその場の雰囲気を感じ取りながら、自分のことばで表現する力を育てることを大切にしています。

また、教科書だけでなく、映像や音楽、SNSなどさまざまなメディアにも触れながら、実際に使われている表現や韓国社会・文化についても学びます。「朝鮮語」をもっと自然に、もっと楽しく使えるようになりたい人におすすめしたい授業です。

【地域特殊研究】

この授業では、植民地支配、朝鮮戦争、分断、民主化、在日コリアン、韓流、K-POPなど、韓国の近現代を考えるうえで欠かせないテーマを取り上げます。歴史や政治だけでなく、文化や大衆メディアもあわせて見ながら、今の韓国社会がどのように形づくられてきたのかを考えていきます。出来事や知識を個別に覚えるのではなく、それぞれのテーマがどのようにつながっているのかをたどりながら、韓国社会をより立体的に理解することを目指します。

討論や発表、レポートにも取り組みながら、自分とは異なる考え方や立場にもふれ、韓国を多角的に見る視点を養っていく授業です。授業を通して、ふだん見ているニュースやカルチャーを、これまでとは少し違った目で見られるようになるはずです。韓国に関心がある人はもちろん、ニュースやカルチャーをきっかけに韓国をもっと深く知りたい人にも楽しんでもらえたらうれしいです。

Q

専門分野に関する研究テーマの魅力を教えてください。

A

私の専門分野は、韓国文学と韓国文化教育です。とくに、韓国文学と日本文学のあいだに位置する在日コリアン文学を中心に研究しています。

在日コリアン文学のおもしろさは、国やことばの境界を越えて生きる人びとの経験を通して、社会の中で見えにくい声や存在に気づかせてくれるところにあります。文学作品を読むことで、歴史や社会を一つの見方だけではなく、別の角度から考えられるようになるところに大きな魅力を感じています。

また、私は文化を大切にしたい「朝鮮語」教育にも関心があります。ことばを学ぶことは、文法や単語を覚えるだけでなく、その社会を生きる人たちの考え方や感じ方にふれることでもあります。文学研究と教育実践の両方を通して、「ことばを学ぶことは、人を知ることでもある」と実感できるところが、私の研究テーマの魅力だと思っています。

Q

先生の人となりをお願いします。

A

最近は、料理と食べ歩きにかなりはまっています。軍隊では炊事兵として1年間働いたこともあって、料理は昔からわりと身近な存在です。大切な人のためにごはんを作って一緒に食べたり、おいしいお店を見つけてその時間を楽しんだりするときに、いちばん幸せを感じます。

韓国語には、いっしょに食事をする関係を表す「식구(食口)」という言葉があります。もともとは家族という意味でよく使われますが、私にとっては、食事を通して気持ちや時間を分かち合う人たち、という感覚に近い言葉でもあります。だから私は、人と一緒に食べる時間をとても大切にしています。

Q

学生のみなさんへメッセージを！

A

大学生活では、新しいことに挑戦する場面がたくさんあると思います。うまくいかないことがあっても、失敗をあまりこわがりすぎなくて大丈夫です。思いどおりにいかなかった経験の中にも、自分を成長させてくれるきっかけがきっとあります。

そして、大学で出会う人との関わりもぜひ大切にしてください。人と話し、相手の気持ちにふれ、自分とは違う考え方に会うことは、自分の世界を広げてくれます。「失敗をおそれず、一步踏み出して、人とことばを交わしてみること」。その積み重ねが、大学生活をより豊かなものにしてくれると思います。ことばを学ぶことも、結局は人とつながり、共感し、伝え合うことにつながっています。教室でみなさんとたくさん話しながら、一緒に楽しく学べることを楽しみにしています。